

守口文化センター指定管理者制度 総合評価(施設所管課による評価)

【評価対象施設】 守口文化センター

【指定管理者名】 公益財団法人守口市文化振興事業団

【評価対象年度】 平成29年度

【施設所管課名】 市民生活部 生涯学習・スポーツ振興課

施設のサービス水準の視点 コメント

施設利用者数が昨年度と比較し、年間3,285人の減少となっており、館全体としての利用率も横ばい状態が続いているため、利用率上昇に繋がる取組み(広報・営業活動・新規事業の実施等)が必要である。図書室については、貸出予約者数及び貸出冊数が微増しており、また所蔵本の自施設利用率も上昇しているが、貸出人数は減少しているため、今後も蔵書数が多い守口市生涯学習情報センターや他市図書館等との連携を強化し、更なる利用者増に繋がる取組みが必要である。

収支状況 コメント

平成29年度については、約173万4千円の赤字決算である。最大の要因としては、施設利用料金収入が目標金額(4,133万円)を下回ったことが挙げられるが、光熱水費の高騰や最低賃金の引き上げ等も一因と考えられる。今後は支出面での抑制はもとより、利用者のニーズに沿った事業展開を効率的に実施し、利用料金収入の増加を図り、施設の適切な管理運営に努める必要がある。

市(施設所管課)による総合評価

総合評価

高い利用率で運営している会議室・研修室はあるものの、施設としての利用率は横ばい傾向にあるため、駅前という施設の立地環境を活かした事業展開等、稼働率の上昇に繋がる取組みの実施が必要である。  
また、収支面は赤字決算であり、経費削減による収支改善は当然のことながら、早急な今後の事業展開の見直しによる収支バランスの改善が必要と考える。今後も利用者のニーズに沿った事業を効率的に実施し、本市における文化の振興に努められたい。  
さらに「守口市指定管理者制度におけるモニタリングの指針」に基づく利用者アンケート調査については、実施はしているものの期間が短く、また回答数も非常に少ないため、利用者の満足度を十分に分析できているとは言い難く、今後は年間を通して実施する必要があることや、四半期ごとに集約する必要があることなど、実施方法について再度指針を確認するとともに、遵守願いたい。  
結びとして、駅前のカナディアンスクエアや交通広場等の人々が集い交流できる好立地を活かし、イベント等を通じての地域住民や周辺企業との新たな協働により、市の推進する「まちのにぎわい」を創出する一助となるよう努められたい。

B

総合評価区分

- A：協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B：概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C：協定事項等の水準以下であった